



9月12日、戸田家・鳥羽ビューホテル花真珠・サン浦島悠季の里を巡る宿泊業就労体験バスツアーが開催され、県内外から大学生ら16人が参加しました。

この事業は、宿泊業の人手不足の解消などを目的に、宿と旅館・ホテルに就職を希望する若者とのマッチングを図るものです。

戸田家では、中村国政さんから会社概要などの説明が行われた後、展望レストランや特別室など館内の主要施設の見学が行われ、参加者らは真剣な面持ちでメモを取るなどして話に耳を傾けていました。

就労体験バスツアーで人手不足解消に



9月6日、加茂小学校の4年生21人、5年生18人が稲刈りを体験しました。

J A鳥羽志摩の協力を得て、田植えや水の管理など児童らは米作りに通年で関わっており、大切に育てた稲を鎌で手際よく刈り取りました。

5年生の伊藤花さんは「暑いけど、楽しい」と感想を語ってくれました。

収穫したもち米は、田植えに参加した神島小学校にも届けられるほか、お正月の餅つき大会や卒業式の紅白餅に使用されます。

田んぼで鎌を使った稲刈りを体験！



9月10日、鳥羽湾にある三ツ島でエコツーリズム推進協議会のみなさんが地質調査や観察を行いました。

三ツ島は、中央構造線の南に位置する三波川変成帯に位置し、青緑色の玄武岩と黒色の泥質片岩から成る珍しい地層が見られます。これらは8千万年前に地下30kmで圧力と高温の熱によりできたもので、隆起と侵食により地表に現れました。

参加者らは三重県総合博物館学芸員・津村善博さんの説明に熱心に耳を傾け、一葉観音や島の植物などについても学び、三ツ島の自然を満喫しました。

鳥羽の名所・三ツ島の珍しい地層を観察



9月7日、鳥羽小学校の5年生36人が海の環境体験学習で市立海の博物館を訪れました。

コアマモが自生する小白浜へ移動し、平賀学芸員から捕獲した生きものを直接手で触れないなどの説明を受けました。その後、浅瀬に入ってタモでメバルやアミメハギ、テッポウエビなどさまざまな生きものを捕獲しました。児童らは「とれたよ!」「みて!」と喜び、バケツなどに入れて観察しました。

観察を終えると、アマモ場から大きく育ててほしいと願いを込めて捕まえた生きものを海へ帰しました。

アマモ場で生きものたくさん見つけたよ